

盛岡市遺跡の学び館 第4回企画展

# 玉山の遺跡



盛岡市遺跡の学び館

## ごあいさつ

平成18年1月10日に、歌人 石川啄木のふるさと「玉山村」は、啄木が青年期を過ごした「盛岡市」と合併いたしました。新しい盛岡市の誕生です。玉山村は「盛岡市玉山区」となり、新たな一歩を歩みはじめました。

現在、玉山区内に230余りの遺跡が確認されています。これらの遺跡からは、数千年前に使われていた土器、動物を捕まえるときに使う石器、自然の神々に祈りをささげるときに使う土製品など、実にさまざまなものが見つっております。それぞれの遺跡から玉山にあった歴史や文化をうかがい知ることができます。そのような歴史と文化の延長上に、今日の玉山が存在するのです。

本展では、盛岡と玉山の合併を記念して、玉山の遺跡とそこから発掘された遺物を紹介します。今回の企画展を通して、玉山の歴史と文化に触れてみてください。

平成18年7月

盛岡市遺跡の学び館

### ■ 盛岡市遺跡の学び館 第4回企画展

会 期／平成18年7月1日(土)～8月20日(日)

平成18年9月2日(土)～9月10日(日)

会 場／盛岡市遺跡の学び館 企画展示室

盛岡市浜民公民館 視聴覚室

主 催／盛岡市遺跡の学び館

後 援／岩手考古学会、岩手史学会、岩手日報社、朝日新聞盛岡総局、読売新聞盛岡支局、毎日新聞盛岡支局、時事通信社盛岡支局、共同通信社盛岡支局、河北新報社盛岡総局、日本経済新聞社盛岡支局、産業経済新聞社盛岡支局、デーリー東北新聞社、盛岡タイムス社、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、岩手ケーブルテレビジョン、エフエム岩手、ラヂオもりおか、月刊アキュート、マ・シェリ、情報紙游悠

### ■ 特別講演会

講 師／武田 良夫 氏 (日本考古学協会会員・岩手考古学会顧問)

演 題／「玉山の遺跡 ～岩洞湖畔に始まる“ひと”の足跡～」

日 時／平成18年7月9日 (日) 13時30分～15時30分

会 場／盛岡市遺跡の学び館 研修室

## 目 次

ごあいさつ

凡例

玉山の遺跡

“玉山”ってどんなところ？～玉山区の概要～ ..... 2

I 玉山の旧石器時代 ..... 4

II 玉山の縄文時代 ..... 6

III 古代の玉山 ..... 10

IV 玉山の中世と近世 ..... 14

関連年表 ..... 16

展示資料一覧 ..... 17

## 凡 例

- 1 本書は、盛岡市遺跡の学び館第4回企画展「玉山の遺跡」の展示図録である。
- 2 展示資料名については、所蔵者・報告者が使用する名称と異なる場合がある。
- 3 本書の資料掲載順序は、展示の順序と必ずしも一致しない。また、展示資料が本書掲載資料と異なる場合がある。なお、巻末には展示資料一覧表を掲載した。
- 4 本企画展及び図録の企画・執筆・編集は、当館職員の協力を得て、菊地 幸裕・室野 秀文が行った。なお、挿図作成には、発掘補助員 金澤 京子・伊藤 喜代子の協力を得た。
- 5 本書に掲載した資料について、所蔵者名の記載の無いものは、当館で保管管理している。掲載写真の提供者名の記載の無いものは、当館撮影・所蔵のものである。
- 6 本企画展開催及び展示図録作成にあたり、次の関係機関・諸氏より有益なご指導・ご協力を頂いた。記して謝意を表する。(敬称略・順不同)

岩手県 岩手県教育委員会 岩手県立博物館 盛岡大学

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 玉山歴史民俗資料館

熊谷 常正 嶋 千秋 高木 晃 高橋 義介

高橋 昭治 竹田 久典 武田 良夫 村木 志伸

山口 美佐子 遊座 英子

# 玉山の旧石器時代

今からずーっと、ずーっと昔。大陸から日本列島にやってきた人々がいました。彼らは、石で作った道具“石器”を使い、ナウマンゾウや野牛を捕まえて食料としていました。この時代を旧石器時代といいます。

旧石器時代がいつ頃から始まるかは、はっきりと分かっていません。岩手県内では、金取遺跡（遠野市宮守町）からおよそ3～5万年前の石器が見つかっており、この頃には、人々が生活していたと考えられます。

玉山区内には、旧石器時代の遺跡として小石川遺跡と大橋遺跡があります。旧盛岡市域では、現在まで旧石器時代の遺跡が見つかっていませんから、この2つの遺跡が新しい盛岡市においても、最も古い時代の遺跡となります。

## ◆小石川遺跡

所在地／玉山区藪川字外山

岩洞湖のほとり、国道455号線の南側にある遺跡です。昭和51(1976)年、考古学者の武田良夫さんが道路際の赤土の中から石器を発見したのがきっかけとなり、玉山村教育委員会が昭和55(1980)年に発掘調査を行いました。

発掘の結果、槍の先に付ける尖頭器という石器と剥片や石核がたくさん見つかりました。剥片や石核とは、石器を作るときに出る残骸(カス)のことです。したがって剥片や石核が見つかるということは、ここで石器が作られていたと言えます。

石器の材料には、地元の北上山系でとれる頁岩やチャートという石が使われていました。それ以外に黒くガラス質の黒曜石という石も使われていました。この石は、遺跡の周辺には存在しない石材なので、遠く奥羽山脈から運ばれてきたものと考えられます。

小石川遺跡は、石器が見つかった地層の年代から、およそ13,000年前の遺跡と考えられます。



小石川遺跡



尖頭器

右端 長さ8.4cm



石核(左)と剥片(右) 左上端 長さ7.9cm

## ◆大橋遺跡

所在地／玉山区藪川字亀橋

岩洞湖の北岸、相ノ山のみもとにある遺跡です。すぐ近くには家族旅行村があり、夏はキャンプに訪れた人々にぎわいます。

大橋遺跡は、考古学者の高橋昭治さん、武田良夫さんたちが発見し、現地調査を行ってきました。

この遺跡では、細石刃やナイフ形石器などの石器が見つかっています。材料は、地元の頁岩やチャートが中心ですが、中には遺跡の周辺には存在しない石を材料にしている石器もありました。小石川遺跡と同じように、奥羽山脈などから運ばれてきたものでしょう。

大橋遺跡は、石器が見つかった地層の年代から、およそ13,000年前の遺跡と考えられます。



ナイフ形石器

長さ10.9cm  
高橋昭治氏所蔵



細石刃

右下端 長さ3.0cm  
高橋昭治氏所蔵

## 旧石器時代とは…

旧石器時代は、前・中・後期の3期に区分されます。小石川遺跡、大橋遺跡はともに後期旧石器時代の遺跡です。この時期は、氷河期(ヴュルム氷期)にあたり、非常に寒冷な気候でした。20,000年ほど前の最寒冷期には、年平均気温は現在より7度程度低く、当時の岩手県はサハリン南部に近い気候であったと考えられます。

森林は、亜寒帯針葉樹が中心であったため、木の実などの食料は非常に少なかったようです。そのため、人々はナウマンゾウやオオツノジカ、野牛などの大型動物を主要な食料にしていました。

後期旧石器時代には、様々な石器が使われました。代表的な石器は、ナイフ形石器、尖頭器、細石刃です。細石刃は、頁岩などの石材を叩いて細石刃核を作り、さらに剥離させて作る長さ1～2cm程度の小さな石器です。単独では使用せずに、木や骨の柄に数個程度埋め込んで使います。

長く続いた氷河期も、13,000年ほど前には終りを告げ、気候は温暖化へむかいます。氷河が溶け始め、海水面が上昇します。森林には広葉樹が増えていきます。このような環境の変化に適応できない大型動物は絶滅し、シカやイノシシなどの小・中型動物が残されます。人々は、小・中型動物を相手にしなければならず、狩猟に使う石器も変化していったのです。



細石刃装着例(復元)

長さ6.4cm

今からおよそ12,000年前、それまで石や木で道具を作っていた人々が、土をこね、火で焼いて作った道具を使い始めます。土器の発明です。ここから縄文時代が始まります。

旧盛岡市で最も古い遺跡は、今からおよそ10,000年前、縄文時代草創期の大新町遺跡です。一方、玉山区で確認されている最も古い遺跡は、縄文時代早期の土器が出土している日戸遺跡です。この遺跡をはじめ、玉山区内には縄文時代の遺跡が数多くあります。玉山区内では現在まで233カ所の遺跡が見つっていますが、そのうち、およそ70%が縄文時代の遺跡です。

ここでは、代表的な縄文時代の遺跡を見ていきます。



ヒスイ大珠 長さ5.7cm  
個人蔵

## ◆日戸遺跡

所在地／玉山区日戸字古屋敷 他

歌人 石川啄木が生まれたところといわれている常光寺の近くに広がる遺跡です。

日戸I～V遺跡の5遺跡がありますが、このうち、日戸I・II遺跡では過去に発掘調査が行われています。

昭和30(1955)年、岩手大学が発掘調査を行い、縄文時代早期の土器をはじめ、縄文時代中期から後期の土器、土偶などが発見されました。中には鐸形土製品のような珍しいものもありました。

平成9(1996)年には盛岡大学が、平成17(2005)年には玉山村教育委員会が発掘調査を行い、縄文時代中期～後期の土器などが多数発見されています。

この遺跡からは、もう一つ珍しい遺物が発見されています。非常に大きな石斧です。

表面を丁寧に磨いて仕上げた磨製石斧で、擦切りという方法で作られています。長さおよそ47cm、重さおよそ3kgもある大きな石斧ですから、大木を切る際に使われたのでしょうか。



日戸遺跡



深鉢形土器 長さ54.0cm  
岩手県立博物館保管



深鉢形土器、台付鉢形土器、注口土器  
右端 高さ17.6cm  
岩手県立博物館保管



土偶  
右側 高さ15.9cm  
左：岩手県立博物館保管 右：盛岡大学所蔵



磨製石斧 長さ47.3cm



鐸形土製品  
中央 高さ7.7cm  
岩手県立博物館保管

## 縄文時代のアクセサリー

現代社会と同様に、縄文時代にもいろいろなアクセサリーがありました。玉山の遺跡からは、耳につける耳飾り、腕につける腕輪、首から下げる首飾りの3種類が見つかります。

耳飾りや腕輪は、現代のものと似たような形で、使い方も同じです。耳飾りには、耳たぶから下げるイヤリングと耳たぶに穴をあけて通すピアスの2種類がありますが、数はピアスの方が多いです。

首飾りの代表的なものが、ヒスイで作った大きな玉(大珠)です。ヒスイは、後の時代には、威信を示す役割も果たすようになります。縄文時代でも、身を飾る以外の意味が込められていたのかもしれません。



腕輪  
高さ5.8cm

耳飾り  
径3.5cm

岩手県を含む北東北には、古代に蝦夷と呼ばれる人々が住んでいました。この時代の記録には、蝦夷は野蛮で原始的な生活をする人々、と書かれています。しかし、蝦夷の時代の遺跡からは、記録とは違う蝦夷の姿をうかがえます。

奈良・平安時代の遺跡と、そこから発見された遺物を通して、蝦夷が生活した時代の玉山の様子を見てみましょう。

## 釜崎遺跡

所在地／玉山区好摩字野中・好摩沢

IGRいわて銀河鉄道線好摩駅の北西、線路の西側に広がる丘陵の上にある遺跡です。

遺跡南端の林とその周辺に、竪穴住居跡が地形のくぼみとして10数ヶ所残っています。このうち2ヶ所を昭和49(1974)年に岩手大学が発掘しました。2ヶ所とも竪穴住居跡で、中からは土師器の甕や壺などが発見されました。

発見された土器の年代から、この遺跡は今から1,200年くらい前の奈良時代の遺跡と考えられます。



釜崎遺跡



発掘調査のようす



竪穴住居跡



土師器 甕(後列)、壺(前列左)、壺(前列右)  
右端 高さ33.0cm

## 永井遺跡

所在地／玉山区永井字永井沢

玉山区の北西部、永井地区の防災コミュニティセンターの北側にある遺跡です。この辺りは、かつて「谷地田」とも呼ばれていたため、谷地田遺跡とも言います。

昭和48(1973)年、岩手大学が発掘調査を行い、奈良時代の竪穴住居跡2棟と土師器の甕、坏などが発見されました。

遺跡の西側には、古墳もあります。古墳は全て「円墳」と呼ばれる丸い形のお墓です。大きさは直径10mくらいで、古墳の真ん中には、遺体を埋葬する場所(主体部)があります。

昭和47(1972)年と平成12(2000)年に発掘調査が行われました。昭和47年の調査では、主体部が、地面を長方形に掘り込んだ形になっていました。ここに遺体を入れた棺を置いたと考えられます。平成12年の調査では、川原石を積み上げて造られていました。この中に棺を置いていたようです。



空から見た永井遺跡(上)と古墳の主体部(下)



土師器 坏(中央)  
甕(右・左)  
右端 高さ33.2cm

## 年代特定の手がかり ～火山灰～

遺跡で見つかるものの一つに、火山の噴火によって降ってきた火山灰があります。火山灰は、遺跡の年代を考えるうえで、重要な手がかりになります。

代表的なものに、十和田a火山灰があります。十和田火山(現在の十和田湖)が噴火した時の火山灰で、白い色が特徴的です。十和田火山は10世紀前半頃に噴火したという説があります。これによれば、十和田a火山灰が堆積している遺構は、10世紀前半より古い年代だと考えることができるのです。



十和田a火山灰が堆積しているようす  
(芋田II遺跡)  
(財) 岩手県埋蔵文化財センター提供

平安時代終わり頃の1189年、源頼朝は奥州藤原氏を攻め滅ぼしました。その後、頼朝は奥州各地に家臣を配置して支配するようになりました。現在の紫波郡から岩手郡の一部を治めることになったのが、相模国（現在の神奈川県）の河村氏です。

河村氏は、領地に一族の者を配置しました。現在の玉山区一帯に配置されたのが、玉山氏、日戸氏、下田氏などです。彼らが住んでいた屋敷の跡が遺跡として今なお残っています。それが城館跡です。城館には、領主の屋敷のほかに、見張りや敵を迎え撃つ前線基地的ものなどもあります。このような城館跡が玉山区内には、およそ40カ所あります。

## 主な中世城館跡

### ◆ 玉山館跡

所在地／玉山区玉山字一笠

城内地区の古刹、東楽寺の北東にある山城です。大館・小館の2つの館で構成されています。大館は、東西約70m、南北約110mで、上から見ると台形の形をしています。北側の小館は、東西約25m、南北約40mで、三角形の形をしています。大館と小館の間には堀があります。



### ◆ 日戸館跡

所在地／玉山区日戸字古屋敷

日戸館は、常光寺の西側にある山城です。それぞれ堀で区切られた上館・中館・下館の3つの館からなり、館全体の大きさは、東西約200m、南北約100mになります。日戸館は、河村一族の一人、日戸氏の居館です。



### ◆ 下田館跡

所在地／玉山区下田字生出袋

下田館は、曹洞宗の寺院喜雲寺の西側に隣接しています。北上川、松川、生出川に三方を囲まれた館で、東西約100m、南北約200mの大きさです。河村一族の一人、下田弥三郎秀祐の居館でした。



### ◆ 一字一石一礼供養塔

所在地／玉山区寺林字梨木平

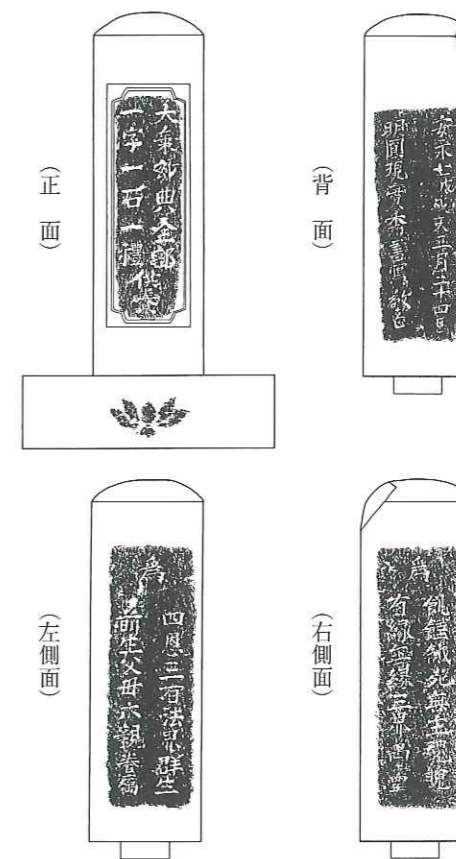
玉山区の北部、寺林地区にある供養塔です。国道4号線わき、永井橋のたもとにあります。江戸時代、東北地方は何度も飢饉にみまわれました。特に今から250年くらい前の元禄・宝暦年間の大飢饉では、飢餓や病気で多くの人が亡くなりました。街道には、行倒れた人々があふれていたそうです。

一字一石一礼供養塔は、このような餓死者を供養するために建てられたものです。安永7（1778）年、現在の岩手町川口にある明円寺の14世実秀和尚によって建てられました。

供養塔の下には、墨で文字が書かれた小石（経石）が多数埋まっていた。これらの小石は、法華経の経典を1つの石に1文字ずつ書写したものです。



一字一石一礼供養塔



供養塔の下から見つかった経石  
右下端 長さ6.9cm